

北茨城市民病院 茨城県北茨城市

[贈呈理由] 病院の移転・新築における熱源オール電化および業務用エコキュートの採用



北茨城市民病院

北茨城市民病院は、東に太平洋を望み、阿武隈山地のなだらかな里山を背にした眺望のよい高台に建設され、病院内の各部屋からは周辺の豊かな自然を間近に感じられる開放感のある設計となっている。

地域復興に向け、地域医療の中核となる新病院を建築

新病院は、茨城県北部の中核病院として、患者さま中心の医療と地域医療水準の向上を推進することを基本理念に、開設後42年経過した旧北茨城市立総合病院から移転・新築として、2014年10月20日竣工、11月1日開院となった。

1972年に建てられた旧病院は、耐震性の問題、施設・設備の老朽化に加え、東日本大震災で甚大な被害を受けたことから、茨城県内では震災後初の公立病院として、茨城県の県北地域や、隣接する福島県いわき市勿来地区の中核病院として、地域復興に向けた歩みをはじめた。

すべての人と環境にやさしいオール電化病院

新病院は、近年の少子高齢化などの地

域実情にも対応した療養病床を新設し、地上4階地下1階建て、診療科目16科、病床数183床の免震構造であり、1.5T(テスラ)超電導MRI、64列マルチスライスCT、血管撮影システム、デジタルマンモグラフィ等最新の高度医療機器や電子カルテシステムを配備するなど、地域医療環境の充実を図るとともに、最新の高効率電動ヒートポンプ(個別分散)空調機器、オール電化厨房システム、業務用エコキュートを採用したオール電化病院であり、快適・清浄・安全な院内環境と省エネルギーを両立するとともに、割安な夜間電力の活用や電化厨房割り引き、およびオール電化割り引きのご契約により、エネルギーコストの削減を実現した。

このことにより、患者さま、ご家族さま、職員の皆さまにやさしく、地球環境にもやさしく、震災復興のシンボルとなる病院として、地域の皆さまから大きな期待が寄せられている。



業務用エコキュート



貯湯槽

北茨城市民病院

所在地: 茨城県北茨城市関南町関本下1050
建築設計: 久米・エイプラス建築関連業務共同企業体
建築施工: 清水建設(株)
蓄熱設備設計: 久米・エイプラス建築関連業務共同企業体
蓄熱設備施工: 新菱冷熱工業(株)
延床面積: 13,783.18㎡
竣工: 2014年10月(新設)

■蓄熱設備概要
業務用エコキュート 40kW×3台[三菱電機]
貯湯槽: 20㎡